

## 巻頭言

## 木とシラバス

比較文化学科長 鄧 捷

私事で恐縮ですが、わたしには高校受験を終えたばかりの息子がいます。息子はこの半年、好きだった部活をやめ、教師に決められる評定平均に怯え、模試の点数に一喜一憂しながら、受験のために勉強をしてきました。先日、その息子が国語の宿題で書いた「詩」をぐうぜん目にして、はっとしました。こう書いていたのです。「わたしを流さないで／泥まみれの子供の手足のように／昔にあった嫌な思い出のように／流さないでください わたしは<sup>だいぼくじゅ</sup>大木樹／大空を舞うたんぼぼの芽と／歌い 美しい旋律を奏でる大木樹」。教科書に載っていた詩のパターンに、自分の言葉を当てはめただけのようなのですが、大人のルールに縛られ、その自主性がしばしば無視されてしまう子供たちの、内なる心の声を聴いた気がします。「大木樹」は辞書に載っていない自作の言葉らしいのですが、子供が子供としての自分をイメージするために用いるものは、自然と、たんぼぼや木などの（弱さをはらみつち成長していく）植物になるのだと、あらためて気づかされました。

なぜこんな話をしたかといいますと、じつは一月から三月まで、新年度の授業のための「シラバス」をずっと書いたり直したりしていて、そこで少し思うところがあったからです。シラバスという言葉、聞いたことがありますか。辞書によれば、シラバスとは「講義の摘要、講義の要目」であり、英語の syllabus からきたものです（カタカナで英語風というとなんだか急に専門用語っぽくて格好良くなりますね）。たくさんある担当科目の計画、内容の概略、予習・復習の指示などを、曜日と時間ごとにひたすら書いていくのですが、そうすると、授業を受ける個々の学生の顔を想像する余裕などまったくなく、まるで工場で大量生産する商品のための「取扱説明書」を書いているような気分になってきます。大学のシラバスとは本来、授業で学生を成長させる、あるいは成長を手助けするガイドとなるものはずです。ところがいまは、それはあまりに無機質で一方的な、授業のたんなる説明書であり、子供たちが自分についてもっているたんぼぼや木のイメージからは、とても遠いものになっていると思うのです。

いまの大学では、とにかく「シラバス通りの授業」を行うことが要求されます。たしかに、私たちが生きる時代は、もはや彩り豊かな四季のサイクルを大切に作る農業社会ではなく、厳しい納期を守って仕様に合わせた製品を大量生産する、工業社会・情報社会です。そのため教育もそれに相応しく、いわば工業化・標準化されつつあるのだと思います。このような時代の流れに逆らうことはあまりに困難ですが、授業を受ける学生が、個々の生を生きる生身の人間であること、たんぼぼや木のような存在であることは、いまも昔も変わりません。大学では、大人数が一つの教室に集まって講義を聴くことがよくありますが、教員として、その学生ひとり一人がたんぼぼであり木であることは、忘れないようにしたいと思います。

さて、新入生みなさん、入学おめでとうございます。みなさんもすぐにこの「シラバス」というものと付き合っていくことになるでしょう。ぜひみなさんの方でも、シラバスをよく読み、教員がなにを想ってそれを書いているのか、考えてみてもらえると嬉しいです。



## 教員紹介

比較文化学科にはどのような先生がいるのでしょうか。みなさんに簡単な自己紹介をしてもらいました。

### 相原 健志

(あいはら・やすし)

**【研究分野】** 文化人類学、スポーツ人類学、ポルトガル語圏研究

**【趣味】** 読書、買い物

**【ゼミ】** 身体文化を共通主題として取り組んでいます。2年次はできる限り広く、多くの文献を読み、知識を有機的に結びつけて基礎的な思考力を養うトレーニングを積みます。3年次からは各人の関心のあるテーマの研究を始めて、授業内で研究発表と議論を行いながら掘り下げて、4年次の卒業論文執筆まで進んでいきます。

**【メッセージ】** 文化研究というと堅苦しく感じるかもしれませんが、「文化」というのは人間が生活していることそのもの、また人間が生活することに関わるものすべてを含んでいます。自分の生活している世界を、深く、そして常識にとらわれずに考えられる力と、その道具となる知識を身につけてほしいと思います。



それを解こうとするので、観察力、考察力が養われます。

### 伊東 光浩

(いとう・みつひろ)

**【研究分野】** 国語学

**【ゼミ】** 卒業後、日本語の教育に、なんらかのかたち(たとえば日本語学校の教師)でかかわりたいと思っている学生たちに対する日本語(教育)研究のお手伝い、というのが私の本学における最も重要な仕事のひとつです。したがって、私の担当するゼミは、まず、何はさておき、そうした目標を持つ学生たちに対して開かれていなければならない、と思っています。次に、教えるという目的からではなく、純粋に日本語に関心を持つ学生もいます。たとえば日本語を勉強しにきた留学生たちです。

**【メッセージ】** あなた方が、与えられた自由の中で、日々、どのような選択をするかということ、それ(その蓄積)によってしか、あなた方は他人による評価を受けられないわけです。自分にしかできないぎりぎりの(つまるところ、一流の)選択を、日々することです。そうして、3年の秋までには、卒業後の身の振り方を決めておきましょう。それと、他人の目(鏡)に映った自分の姿を、よく見ることもとても大切なことです。



### 伊藤 健人

(いとう・たけと)

**【研究分野】** 日本語教育学、日本語学(文法論)、言語学(意味論、語用論)

**【趣味】** (糖質制限を踏まえた)食べ歩き

**【ゼミ】** ことばと文化の関わり、コミュニケーションの構造、わかりやすさとはなにか…などが主なテーマです。具体的には、こんな場面・状況でなぜこんな言い方をするのか? そう言うと相手はどう捉えるのか? 自分の伝えたいことをどう言えば相手にわかってもらえるのか?などを考えていきます。その過程で言語や文化の違い、場面・状況や対人関係の違いなどが大きく関わっていることがわかってきます。ゼミ生にはそれぞれ自分で疑問を探し、それを探求して行って欲しいと思います。

**【メッセージ】** どんなことでもいいので「なんでなんだろう?」という疑問を常に持つようになって欲しいと思います(例えば、なぜ冬に味噌ラーメンを食べたくなるのか?)。疑問があれば、人間は自然と



### 井上 和人

(いのうえ・かずひと)

**【研究分野】** 日本近世文学(特に西鶴と西鶴以後の浮世草子)

**【趣味】** 趣味? 趣味ねえ……趣味無え!

**【ゼミ】** 日本の古典文学のゼミです。2年次春学期は、作品を読みながら、文学史をたどります。『古事記』(君はゾンビを愛せるか?)、『落窪物語』(お姫様奪還作戦!)、『今昔物語集』(羅生門の上で琵琶を弾いていたのは?)等々、美味しい話を厳選。もちろん、『源氏物語』や『平家物語』



も予定あり。秋学期は、井原西鶴の『西鶴諸国ばなし』を読み解きます。娘の水死体が地下水脈を流れて来たり、婆さんの首が火を噴いて飛んでいったり。3年次は、自分の気に入った作品を持ち寄って、みんなで読みます。一番面白いのはだれのだ？よいよ、4年次はゼミ論・卒論の大詰め。発表したり、論文を書いたり。目指すは、脱〈お勉強の古典〉。読んで楽しむ古典です。

**【メッセージ】** 関東学院大学の国際文化学部の比較文化学科でも、日本文化を学ぶことができるんです！

## 碓井 みちこ

(うすい・みちこ)

**【研究分野】** アメリカ映画、日本映画

**【趣味】** 街歩き

**【ゼミ】** 私のゼミには、映画もしくはアートに関心がある学生が集まります。ゼミ生が研究テーマを決める際には、映画やアートに関わることであれば、最終的にはどんなテーマでもOKです。ただ、ゼミの時間中に、ゼミ生がそれぞれ、一人でやみくもに研究するだけにはならないように、研究テーマをこれから決めていくのに役に立つような課題、研究資料を実際に探して、それについてプレゼンテーションを行う課題などを、私からいくつか提示します。まずはそれらをゼミ生全員で一緒に取り組むことから始めましょう！

**【メッセージ】** 「大学に行ったらもっと時間に余裕があると思っていただけ、毎日とても忙しい！」学生からそんな言葉をよく聞きます。大学に来ている時間、そして、隙間時間も上手に活用して、自分がこれと思うものを何とか見つけて、よく学んでほしいと思っています。



## 大内 憲昭

(おおうち・のりあき)

**【研究分野】** 憲法・アジア法  
(朝鮮民主主義人民共和国および中国の法)

**【趣味】** 読書（と言っても、これは仕事のうちかな？）

**【ゼミ】** ゼミは近現代の東アジアとくに南北朝鮮と中国を対象とし、近代（明治）以降の日本との関係および中国、韓国、朝鮮のそれぞれの国の問題を研究します。2年次では日本と朝



鮮半島との歴史（朝鮮通信使、秀吉の朝鮮侵略、近代以降の日本による朝鮮植民地統治、戦後の日韓関係など）をVIDEOを見ながら学びます。3年次では韓国・朝鮮と中国の現在、それら3か国と日本との関係などを学び、4年次では2年・3年で学び研究したことを卒業論文の作成に向けて深めていきます。

**【メッセージ】** 私のゼミでは中国や韓国への交換留学を希望する学生が多く学んでいます。実際に2019年度の2年生は4名が韓国（高麗大学、韓南大学）、1名が北京第2外国語学院に留学しますし、3年生も3名が韓国・韓南大学へ、2名が南京師範大学に留学しています。近年の学生を見ていると「内向き」の学生が多いようですが、大学の4年間の間に大学の交換留学制度を利用して、外から日本をそして自分を見つめてください。

## 菅野 恵美

(かんの・えみ)

**【研究分野】** 中国史・秦漢史・中国墓葬装飾

**【趣味】** ジョギング散策、ピアノ

**【ゼミ】** 2年次のゼミでは中国史に関する本を読み、著者の問題関心を読み解いていきます。本の中に出てきた人名や書名・地名および概念などを調べる過程で、中国史や文化に関する基本的な知識が得られるはずです。時折中国語の文章も講読します。3年次には実際に中国史に関わる様々な史料を読んでいきます。史料や関係する概説書を読む中で、時代や人物・観念など、皆さんの問題関心を元にテーマを絞り、4年次では卒業論文作成に向けて探求を進めていきます。

**【メッセージ】** 歴史は、ある価値観で過去を見直し、現在や未来に対して「新たな価値」を見出す学問です。学生の皆さんは、自分の疑問や違和感を大事にしてください。なぜなら、そこにテーマの芽があるからです。



## 君塚 直隆

(きみづか・なおたか)

**【研究分野】** イギリス政治外交史、ヨーロッパ国際政治史、王室研究

**【趣味】** 美術・音楽・演劇・映画鑑賞

**【ゼミ】** 2年次には日本語と英語の文献を講読し、イギ



リスの歴史について基礎的なことを学びます。3年次からは各人のテーマに沿った研究発表を行い、4年次に提出する卒業論文に向けて研究を蓄積していきます。テーマは、イギリスの歴史や文化が中心となりますが、広くヨーロッパの歴史や文化について探究するゼミ生も多いです。そして日本との比較が望まれます。

**【メッセージ】** 大学生時代の4年間はあっという間に終わってしまいます。「自分はこれだけは人に負けない」という得意なものを、この4年間に築き上げてください。それは生涯にわたって強みとなるはずです。

## 小滝 陽

(こたき・よう)

**【研究分野】** アメリカ合衆国の歴史

**【趣味】** 音楽・映画鑑賞・食べること

**【ゼミ】** 2年次春学期には日本語の共通文献を輪読し、アメリカに関する幅広いトピックを学びます。秋学期

には、参加者が自分の興味に沿って選んだ文献を皆で読み、問題関心の幅を広げつつ、理解を深めていきます。ゼミは発表と議論の場なので、毎回必ず疑問点や論点を提出する(発言する)ことが求められます。日頃からアメリカのニュースに関心を持ち、その背景に関する情報を積極的に収集する癖をつけておくと、ゼミの時間がより有意義になると思います。

**【メッセージ】** 皆さんは何をしているときが楽しいですか? 大学生の間は、気楽なことより、楽しいことをしてください。楽しいとは、要するに「自分らしい」ということです。そういうものを多く持っているとう自信につながります。取るに足らないようなこと、面倒くさく感じられるようなことの中にも、あなたにとっての「楽しい」が隠れている可能性があります。食わず嫌いせず、とりあえず何でもやってみてください。

## 佐藤 茂樹

(さとう・しげき)

**【研究分野】** 近代ドイツ文献学

**【趣味】** イタリア語、バンド活動(ギター、ベース)、オーディオ、水泳

**【ゼミ】** このゼミでは領域横断的な「文化」をテーマにし、まずは事典の項目を執筆する



という形で自分の研究分野の基礎データを整理・蓄積することから始めます。常に読み手の理解を意識した作業を重ねることで公共の文書に必要な手順や書式共有の重要性を学びながら、取得情報の取捨選択・検証、伝達事項の優先順位、適切な参考文献の探索等々の能力を身につけ、将来論文執筆が可能となる準備を進めていきます。毎年、各自の試案を参加者間の議論で検証・推敲して最終稿を冊子にまとめていますので、各代の成果が一定量積み重なったらゼミ私家版のCD-ROM『学生版 比較文化事典 拾遺集』を制作・公開しましょう。なお、毎年ゼミの課外活動としてクリスマス行事にちなんだ飾り物やお菓子を制作し、展示しています。

**【メッセージ】** 『ファウスト』という作品の冒頭に「思いがあれば迷うもの、それが人間だ」(池内紀訳)という言葉があります。わたしは、思いがあってジタバタしている人が好きです。ジタバタして下さい。くれぐれも、入学したときの自分のままで卒業していかないように。

## 高井 啓介

(たかい・けいすけ)

**【研究分野】** キリスト教学、宗教学

**【趣味】** ねこ、タカラヅカ、海外ドラマ、カラヴァッジョ

**【ゼミ】** 世界と日本の宗教文化を広くとりあげ、社会・倫理・芸術・思想・政治・生活などとの様々な関わりを考え

ていくゼミです。本や論文を読むこと、意見の交換や議論をすること、レジュメを作って発表をすること、フィールドに出て行く(聖地巡礼をする)こと、研究室でうだうだすること、打ち上げに全力を注ぐこと、これらはすべてこれまでのゼミ生がゼミを通して実際にやってきていることです。そういうことの積み重ねのなかで、各自が卒論のテーマを見つけ、それをどうやって研究したらよいか、どのように論文を書けばよいか、そしてどのようにわかりやすく自分の論文の内容を人に伝えたらよいか、そういったことを積み重ねながら、4年次に卒論を完成することになります。

**【メッセージ】** 宗教文化には、これまでみなさんが気づいていない面白さが必ずあるはずです。その面白さを見つける手助けを私はしようと思っています。



## 鄧 捷

(とう・しょう)

**【研究分野】** 中国近現代文学、  
日中比較文学・文化

**【趣味】** 読書（仕事になって  
しまったが楽しい）・音  
楽・映画鑑賞・ヨガ

**【ゼミ】** 2年次にはさまざま  
な視点（歴史、文学、文化、  
生活、習俗、映画、美術、音  
楽など）から、日本と比較する  
方法で近現代中国の概略を学  
びます。3年次から社会学視点  
も導入して世界文明の中に位  
置する中国文明の特徴、社会  
主義中国、日中関係などにつ  
いて学び、討論、思考し、自  
分の研究テーマの発見につな  
げます。4年生は主に卒業論  
文に向けて各々の研究を重ね  
ていきます。

**【メッセージ】** 私のゼミは  
主に中国語を履修した学生  
や留学生が参加しているので、  
中国語の原典を読むこともあ  
ります。国や背景の違う学生  
が意見を述べあう場でもあり  
ますので、自分の意見をしっ  
かり持って発言することが重  
要です。ゼミは読書を推奨し  
、長期休暇中に必ず一冊の本  
を読み、休み明けの授業で報  
告会を行います。また、ワー  
ルドスタディやゼミ合宿の形  
で実際に中国を訪れます。



## 西尾 知己

(にしお・ともみ)

**【研究分野】** 日本中世史、日  
本寺院史

**【趣味】** 散歩、スポーツ視聴

**【ゼミ】** 2年次には1つの史  
料をゼミのメンバー全員で  
読み、日本史にかかわる史  
料を読むための基礎的な知  
識を学びます。3年次には、  
それぞれのメンバーの興味関  
心に仕上がって、史料や参  
考文献を集め、それらをもと  
に研究発表を重ねていきま  
す。そして最終的には4年生  
のときにそれらの研究成果を  
卒業論文にまとめられるよう  
にいきます。

**【メッセージ】** 高校までとく  
らべて、大学の4年間は自分  
のやりたいことができるだけ  
の十分な時間があります。た  
だそれは、4年間を自らデザ  
インしなければならない、と  
いうことでもあります。高校  
までの生活に慣れてると、こ  
のデザインがなかなか難し  
いように思います。できるだけ  
早く、自分で積極的に生活  
を組み立てていく習慣を身に  
つけましょう。



## 富岡 幸一郎

(とみおか・こういちろう)

**【研究分野】** 近代・現代文学、  
哲学・思想

**【ゼミ】** ゼミでは日本の戦後  
文学の作品を読んでいます。  
また、近代日本の思想や宗  
教についての基本的な知識  
を身につけています。

**【メッセージ】** 大学生活の充  
実は自分の中に引きこもら  
ないで、他人と出会うこと、  
言葉と出会うこと、さまざま  
な思考や思想と出会うこと  
である。キリスト教の信仰を  
もっていた作家の椎名麟三に  
『邂逅』という作品があるが、  
この邂逅という言葉に諸君へ  
贈りたい。教室でゼミナール  
で、また時には巷の酒場など  
での出会いを楽しみにして  
います。



## 八幡 恵一

(やはた・けいいち)

**【研究分野】** フランスの文  
化・思想

**【趣味】** テニス

**【ゼミ】** ゼミではおもに研  
究の方法や論文の書き方につ  
いて教えています。学生が  
「こんな問題を考えてみた  
い」というときに、その問  
題についてどうやって調べ  
ればいいのか、それをどう  
やって論文にすればいいの  
かを、教員だけでなくみな  
んでいっしょに考えて答え  
を探していきます。学生の  
発表や意見の交換、ディス  
カッションが中心となる  
ゼミです。

**【メッセージ】** 勉強も大事  
ですが、とにかくたくさん  
の人やものと接するように  
してください。いろいろな  
場所にでかけ、いろいろな  
人と話をし、いろいろな音  
楽を聴き、いろいろな本を  
読む、こういったことを心  
がけて大学生活を送って  
みてください。いずれも  
社会に出てからは実践す  
るのが難しいことですが、  
社会に出てからの生活を  
より豊かなものにして  
くれます。働き始めて休  
日に出かける場所やいっ  
しょに行く友人、おとも  
となる音楽や本をストック  
できるのは、大学生の時  
きだけです。



## 文庫キャンパス施設紹介

文庫キャンパスにはみなさんの勉強や生活を支えるたくさんの方の施設があります。それぞれの場所にお勤めの職員さんに施設の簡単な紹介文を書いてもらいました。ぜひ利用してみてください。

### 学生支援室

大学生活を送る中で、授業や成績に関すること、就職に関すること以外の手続き、案内、相談を行うことができる窓口です。手続きには、学生証の再発行、住所変更、学費に関する手続き、国際センターの書類受付等があります。

手続き以外にも学生支援室内にはフリースペースがあり、パソコン・給茶器・電子レンジ・電気ポット・マンガが備えられています。これらは自由に利用することが出来ます。

また、学生支援室には、「学生メンター」と呼ばれる学生ボランティアスタッフがいます。先輩学生として後輩の相談を受ける活動や、学内のイベントを企画しキャンパスを盛り上げています。よろしければ、あなたも学生メンターの一員に加わってみませんか？

最後になりますが、大学は高校と異なり、担任の先生もいませんし、ホームルームもありません。手続きなどは【自分で】行い、大学からの連絡は【自分で】確認をします。簡単に言いますと、大学は【自分で】行うことが基本です。【自分で】という言葉を強調しましたが、これすご〜く大事なことです！

しかしながら、自分で探してみたけれど「どうしても、わからないことがある」、「誰に聞いたら良いのかもわからない」時があるかと思います。

……そんな時は学生支援室を訪ねてください。

- 場所：1号館教室棟1階
- 開室時間：月曜～金曜  
事務手続き窓口 8:30～17:00（土曜8:30～12:30）  
フリースペース10:00～17:00（土曜8:30～12:30）
- 連絡先：045-786-8954



ちょっとしたときに役に立ついろいろなものを置いています。

### 図書館

あなたの好奇心・探究心を満たす図書館へようこそ！図書館って本がたくさん並んでいて、静かに勉強する場所って思っていないですか？実はいろんなことができるんですよ！

関東学院大学図書館金沢文庫分館は1階で辞書、事典

類を使って調べものをしたり、雑誌や新聞を読んだり、PCを利用してデジタル情報を収集することができます。2階ではゆっくり静かにさまざまな本を読むことができます。八景キャンパスの本館や分館から本を取り寄せて借りることもできます！ここまでは、そう、みなさんが知っている図書館ですね。

これだけではないんです！5000件を超えるタイトルの【電子ブック】をPCはもちろん、自分のスマホや自宅からでも読むことができます！レポートの参考になる本や、英語資格試験・就活に使えるテキスト、そして、映画の原作になった小説まで、さまざまなジャンルの日本語、英語の電子ブックを取り揃えています。なにせ、電子ブックは返し忘れることもない！重たい本を持ち歩くこともない！ので、超便利！！

そして、ゼミの仲間同士、話し合いながら勉強できる【グループ学習室】もあります。

図書館ではみなさんの〈なんだろう？〉〈なんでだろう？〉という好奇心・探究心を満足させられるよう、本や雑誌を取り揃え、お待ちしております。もちろん、探し方などわからないことは私たちスタッフがお手伝いしますので、気軽に図書館へ来てくださいね。

- 開館時間(授業日)：月曜～金曜8:30～19:30  
(土曜8:30～18:00)  
\*図書館カウンター業務は9:00からとなります。
- 閉館日：日曜・祝日（ただし授業日を除く）  
大学祭期間  
\*試験期間には日曜も開館します。日曜開館や夏休み・春休み期間の開館日・開館時間については、掲示等でお知らせします。



とても明るい建物です。

### メディア・ライブラリー (LL 教室)

3階CALL教室隣LLオフィス(K-305)内にあるメディア・ライブラリーは、Blu-rayやDVDを使って楽しく語学学習ができる施設です。映画の名作や話題作・新作、TVドラマなどを、幅広く豊富に取り揃えています。ライブラリー内で、一人でもしくはお友達と一緒に視聴できます。

また、各種検定試験対策や語学教材(本・CD・雑誌)も充実していて、貸出を行っています。NHK語学講座テキスト・CDもありますよ。辞書ナシで読める短いス

トリーの「多読本」もやみつきになる楽しさです。どの教材が良いか迷ったら、スタッフにお声をかけてください。アドバイスしますよ。見たい映画や気になっている本は、購入リクエストしてください。リクエストは随時受け付けています。

毎週木曜日のお昼休みには、1回だけの参加でもOK！ランチを食べながら外国人講師と英会話が楽しめる「Let's Communicate」を開催しています。

メディア・ライブラリーに関して、詳しくはKGUポータルでの「お知らせ」や、エントランスホールの掲示板、キャンパスの各所で無料配布中「LL News」や「LLからのお知らせ」をご覧ください。

メディア・ライブラリーをお気軽に訪ねてきてくださいね。It's YOUR Library, Use it!

■場所：1号館3階K-305 LL Office内

■開室時間：月曜～金曜8:30～17:30  
(土曜8:30～12:30)



たくさんの映画を用意しています。

## 就職支援センター

皆さんは、大学を卒業したら、どのような進路を選択し、どのような人生を送るのでしょうか。簡単に言えば、就職支援センターは皆さんと一緒に進路を考え、将来の夢に向かって進む皆さんを応援するところです。

「将来を考える」

難しいことですね。「自分には、いったい何ができるのだろう?」と思っても、焦らないで。いろいろなことを経験しながら、自分の新たな一面や適性などをじっくりと考えていきましょう。現在の自分自身を知る。自分ひとりでは見えにくくても、一緒に考えることで見えてくるものなのです。

「のっぺらぼうな4年間を過ごさない」

「のっぺらぼう」とは、何をしていたのか記憶に残らない学生生活のことです。学業、部活動・サークル活動、留学、趣味、ボランティア、アルバイト、インターンシップなど。この中から何か一つでもやり通しましょう。上手くできたことだけでなく、失敗・挫折経験でもかまいません。そのような学生生活が自己成長をもたらし、将来の進路選択の基礎になります。

「国家資格キャリアコンサルタントが常駐」

皆さん一人ひとりの人生設計をサポートするために、個別相談を実施しています。大学生の就職活動に精通した専門のスタッフやキャリアコンサルタントが常駐するこのセンターには、学生たちより年間約1万件的相談が寄せられます。卒業後のことを真剣に考え始めたら気軽に訪ねてください。専門スタッフが待っています。

社会には、皆さんを必要としてくれる場所が必ずあり

ます。一緒に探してみましょ。

■場所：1号館1階

■開室時間：月曜～金曜8:30～17:00  
(土曜8:30～12:30)

■連絡先：045-786-7234



個別相談ブース。センター内には就活準備資料がたくさんあります。

## カウンセリングセンター

そうだ！ カウンセリングセンターがあったんだ！

毎日の生活の中で、困ったことが起きたり、どうしてよいか分からないとき、何だかもややするとき…。そんなときは、カウンセリングセンターを思い出してください。カウンセラーは皆さんとは直接的な関係がない第三者的な立場のため、これを話したらどう思われるだろう、という心配を持たずに思っていることを安心して話していただけます。相談の内容はどんなことでも大丈夫です。こういう所って日常生活の中には意外に少ないのかもしれない。私は普段、学生の皆さんと「この前こんなことがあった」「今こんなことを考えてる」など、様々なことを話しています。これらの話し合いをきっかけに、皆さんが困っていることを整理したり、自分なりの答えが見つかって、生活しやすくなるといいなと思っています。

まずはぼちぼち、大学生活を始めてみてください。そして何か話したくなったら気軽にご連絡ください。そうそう、カウンセリングセンターでできることは相談だけではなく、「ほっとスペース」という静かで居心地のよい休憩場所もあるんです。月に1回程、お茶会などのイベントもやっています。相談がある方もない方も自由に利用できて、飲食もOKなので、どんなところかぜひ一度見に来てください。

■場所：3号館LSC1階

■開室時間：月曜～金曜9:00～17:00

■連絡先：045-786-7235



ほっとスペースではマンガや本を読めます。

## 日本語教員養成課程について

比較文化学科には「日本語教員養成課程」があります。外国人に日本語を教える教師を育てる課程ですが、そもそも日本語教員とはどのような職業なのでしょう。教員の資格を得るための「日本語教育能力検定試験」の合格体験談とあわせて、学生に聞いてみました。

### ●日本語教員とは

そもそも日本語教員ってどういう職業なのか、ピンとこない人も多いと思います。例えば、新大久保や新宿、池袋には、多くの日本語学校が存在します。その日本語学校で、日本語を母国語としない外国人に日本語を教えるのが日本語教員です。たんに日本語のいわゆる四技能（読む、書く、話す、聞く）を教えるだけではありません。言語としての能力だけでなく、日本文化について教えることも日本語教員の重要な役割です。日本文化とひとことで言っても、目に見える文化、見えない文化に分けられます。言語、食事、衣服、建物などが見える文化だとすると、時間の概念や宗教観、上下関係などが見えない文化です。

例えば、あなたが英語、あるいは全く知らない言語の環境で生活をしなければならないとしましょう。先ほど挙げた見える文化を理解しているだけで、現地の人たちと円滑なコミュニケーションがとれるでしょうか。滞在期間が短ければ、それも可能かもしれませんが。しかしその期間が一年、二年、もしくは一生となるとどうでしょう。その現地の価値観など見えない文化を知らないことが、自分にとってマイナスに働くことは容易に想像できます。このように考えると、言語だけではなく文化を教えることも、日本語教員の大事な役割であるというのがよくわかります。

最初は、日本語教員になるという明確な目的があつてこの課程の履修を決めた訳ではありませんでした。ただ、大学生という新たなスタートを切ったからには、なにかここでしかできないことをやろうという意気込みがあり、そして、友人といっしょに諸課程の説明会に参加したなかで、日本語教員養成課程にもっとも興味を引かれたことは事実です。

その後、本格的に日本語教員を目指そうと思ったのは、二年生の秋学期にアメリカへ留学して日本に帰ってきてから、三年生の春でした。留学中に多くの外国人とふれあったことが、この決意のきっかけになったと思います。

### ●日本語教育能力試験について

ところで、日本語教員になるためには、①大学の養成課程を修了する、②民間の養成講座420時間を受講する、③日本語教育能力検定試験に合格する、の三つの条件のうちどれか一つ、あるいは複数を満たさなければなりません。私は①の養成課程を履修中ですが、③の検定試験もチャレンジし、無事に合格することができました。つぎにこの試験についてお話ししたいと思います。

日本語教育能力検定試験は三部構成となっており、一日をかけて行われます。試験1は90分で、例えば「動

詞+～ています」を使った文が四つ並び、そのなかから性質が異なるものを選ぶ、という問題があります。試験2は30分のリスニングで、学習者の間違った日本語の発音を聞き、正しい発音との違いを問われる問題が、試験3は120分で、具体例の提示から自分自身の考えを基礎的な知識を混ぜつつ記述する、などの問題があります。

実際に試験勉強として過去問を解き始めたのは、試験の二か月くらいまえからだったと思います。夏休みのあいだに一、二回過去問を解いて、わからない単元がどこなのかをざっと洗い出しました。養成課程の授業自体が試験に直結していたので、春学期はとくにふだんの授業で内容をしっかり覚えることを心がけました。試験の二週間ほどまえからは、部活・バイトをすべて休み、授業が終わってから毎日閉館まで図書館に通いました。ひたすら過去問を解き、間違えた箇所をテキストで確認するという作業を繰り返しました。じつはこの試験、合格率が二～三割といわれる難関で、さらに受験者の半数以上が40～60代であることが、私にとってはかえってよいモチベーションになったと思います。必死の勉強の甲斐あってなんとか合格することができ、ほっとしました。

### ●最後に

大学にいるあいだ（あるいは大学の外でも）、自分の今後を決めるどんな機会があるかはだれにもわかりません。だからこそ、最初のうちから自分には関係ない、必要ないと選択肢を消してしまうのではなく、少しでも引っかかると思う授業や進路があれば、とりあえず目を向けてみてください。それが(私のように)諸課程ならまずは説明会に参加する、授業ならシラバスをよく読み、先輩や先生に話を聞いてみるなど、自分で考えて行動することが重要です。大学には色々なチャンスが転がっています。それをいち早く見つけて行動を起こせば、どんどん先へ進んでいけると思います。

(比較文化学科4年 笹島和美)



笹島さんが勉強に使った問題集

## 旅行業務取扱実務について

比較文化学科には「旅行業務取扱実務」(Ⅰ～Ⅲ)という授業があります。これは「旅行業務取扱管理者」という資格を取るための授業です。この授業を受けて資格を取得した学生に、授業や資格試験のことについて聞いてみました。

「旅行業務取扱管理者」の資格は、おもに旅行会社に就職したいと考えている人にオススメできる資格です。旅行会社では、この資格をもっていない場合は入社後に取得させるところも多いようで、それだったら学生のうちに取っておこうと思い、資格にチャレンジすることを決めました。試験は例年九月の初旬に行われ、内容は旅行業法、約款、地理・料金計算の三項目に分かれており(僕が受けたのは「国内」の方で、もっと難しい「総合(海外)」もあります)、各項目でそれぞれ六割以上の点数が取れば合格となります。じつは最初に受験したのは昨年(2018年)で、そのときは不合格となってしまったのですが、地理・料金計算の項目だけはそこで合格点が取れていたため、今年はこの項目の受験が免除されました。そのおかげもあって、二度目のチャレンジだった今回、無事に合格できました。

「旅行業務取扱実務」の授業は昨年、一年生のときに受けていました。授業は講師の先生の自作の教科書と問題集を中心に進められていくのですが、この教科書は先生が要点をまとめて丁寧にならされていて、その教科書の解説をしたあとに問題集を解き、解いた問題をさらに解説するという内容でした。その先生が、夏休みに任意参加の集中講義というかたちで受験日の直前まで講義をしてくださったので、授業の内容を忘れることなく試験に臨めました。残念ながらその年の結果は不合格でしたが、この授業、集中講義があってこそ二年目の合格だと考えています。

二年目の受験は自分で教科書や問題集をつかって毎日勉強をしていました。大学の夏休みが始まってから八月のあいだは、ほぼ毎日コツコツと問題に取り組み、内容を忘れないようにしました。そこでやっていた対策としてひとつ紹介したいのは、法律についての文章の「間違い探し」です。旅行業法の問題と約款の問題は、四つの選択肢からどれが正しくどれが間違っているかを問うものが多いのですが、そこで正解以外の選択肢にも注目し、なぜこの文章が間違っているのかということを必ず確認するようにしていました。

実際に合格したければやらなければいけないことはほかにも沢山あります。ですが苦勞するぶん合格したときの喜びは格別です。みなさんもぜひチャレンジしてみてください。(比較文化学科3年 須貝隼治)

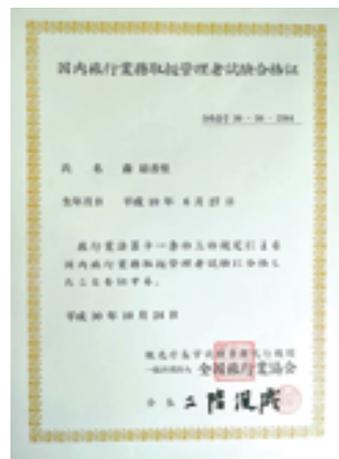
旅行業務取扱管理者は、おもに観光業界で役に立つ資格であり、旅行会社だけでなく、鉄道やホテル、航空業界を目指す人にもおすすめです。観光系の会社では、入社後にこの試験を受験させるところもあります。試験は「国内」と「総合」の二種類があり、取り扱える業務の範囲が異なります。国内旅行業務取扱管理者は国内の業務のみ、総合旅行業務取扱管理者は国内と海外の業務を取り扱うことができます。私は1年生のときに国内旅行業務の試験に合格し、現在は総合の受験に向けて勉強をしています。比較文化学科では、「国内」と「総合」の両方に対して試験対策となる授業が設けられており、また一般的な資格の講座と違って単位を取ることもできます。

試験内容は、大きく分けて、旅行業法・約款、実務、地理があり、それぞれについて勉強しますが、たとえば国内の実務の問題では、JR運賃、国内航空運賃、宿泊料金、貸し切りバス、フェリーの運賃といった分野から出題されます。地理の問題では、日本全国の地名や観光資源について、例えば世界遺産や名所に加えて、名産品、祭事などが問われます。

総合の方の実務の問題では、航空会社コード、時差の計算、旅行英語、国際航空運賃、税関・検疫などの分野から出題されます。地理の問題では、日本以外のほぼすべての国の観光資源のなかから、例年20問が出題されます。

私は、旅行会社に就職したいという思いから、この資格を在学中に取ると決めていました。国内は1年生のときに頑張って合格しましたが、試験勉強では、とにかく過去問をたくさん解くことが大切だと思います。私は、基本的な知識を一通り覚えたあとひたすら過去問を解き、わからなかったところは時間を割いて復習しました。計算問題は慣れるまで辛抱強く問題を解くことが大事で、情報量が多い地理の問題は普段から少しずつ覚えておくと良いと思います。

(比較文化学科3年 森結香里)



森さんの合格証

## 秋学期集中講義「外から見た日本」

比較文化学科教員 鄧 捷

秋学期の集中講義、「外から見た日本」が、2月4日から7日にかけて行われました。今回この講義を担当してくださったのは、中国、北京第二外国語学院の邱鳴（きゅう・めい）先生です。邱鳴先生は、日本古典文学、日中比較文化研究の専門家であり、長く北京第二外国語学院の副学長を務めておられた方です。授業では、文学だけではなく、文化、言語、政治、企業や、大学のキャンパスの文化、日常生活などにおいて、外から見たときの日本の特徴、中国や世界との違いについて、講義をしてもらいました。授業を受けた学生は、そこで少なからぬ刺激を受けたようです。どんな刺激を受けたのか、学生の一人が書いたコメントを読んでみましょう。

「私は、この講義を受けるまでは、日本は礼儀のある国、おもてなしの国だと思っていました。ですが講義を聴いて、それは反対に他人を尊重しすぎて、かえって自分を弱くしているのだとわかりました。これでは、日本のなかで良いとしても、世界に出たらはっきりとした主張ができず、他の人たちに追い抜かされてしまいます。私は日本という国が好きですが、これからの日本やいまの若い世代にはやはり不安を感じていて、自分はそのような世の中に流されたくないと思っています。これからは、もっと政治に関心をもって、選挙に行ったり学校の図書館で新聞を読んだりして、行動してみようと思います。また、大学の制度を利用して海外に行き、その国の人と触れ合い、異文化を学びながら、日本を「外」から見る視点を身につけたいと思います。この講義を受けて、その思いがとて強くなりました」。

（比較文化学科2年 関口文香）

また集中講義を終え北京に戻った邱鳴先生からも、関東学院大学の学生についての感想をいただきました。一部ですが紹介します。

「私は昨晚、無事に北京に戻りました。今回、貴校で四日間行った集中講義は、長い期間とはいえないものの、深く印象に残りました。[...] 今回の集中講義を通じて、日本の大学生に対して新たな認識を得ました。これまでは、日本の大学生は積極性、主体性に欠け、視野が比較的狭い、という印象でしたが、しかし、今回、学生たちと直接に触れ合うことにより、日本の大学生の純粹さ、素朴さを感じました。彼ら彼女たちは、中国の大学生と比べればやや内向的ではありますが、非常にまじめに問題を考えることができ、議論やコミュニケーションにも積極的であります」。

「外から見た日本」は、年に二回、外国から先生をお招きして開講しています。みなさんもぜひ受講してみてください。



邱鳴先生と学生たち

## 中国語資格試験対策講座体験レポート

比較文化学科では例年、春休み期間中の五日間を利用して、中国語履修者を対象に中国語資格検定試験（HSK）の対策講座を開いています。HSKは中国政府公認の検定試験で、合格すれば、留学するときや就職活動のときに大きな助けとなります。毎年たくさんの比較文化学科の学生がこの対策講座に参加して試験に臨み、級（難易度順に1級から6級まであります）を進めています。さて、今年の参加者はどうだったでしょうか。参加者のひとりに体験レポートを書いてもらいました。

私は2月10日～14日にかけて、李維濤（り・いとう）先生を講師としてお招きした中国語資格試験対策講座に参加しました。参加者は1年生から3年生までおり、それぞれ検定で受ける級も異なりましたが、最初は級に関係なく1年次の学習範囲をベースに授業が進み、基本的な文法や重要単語の復習からしてもらったので、自分がどの程度理解できているのかを確認しながら、落ち着いた

で勉強することができました。

この講座で最も印象的だった学習法は、過去問の答え合わせをする際に、リスニングで音声を読んだセンテンスを「何も見ずに」復唱できるか、繰り返し確認するというものです。最初はまったくできませんでしたが、繰り返すうちに聞こえた単語を整理して理解する力が付き、これが試験に向けての自信になりました。さらに、本番の試験の流れや実際の試験放送の内容を日本語で説明してもらったことで、実際の試験のイメージをもちつつも焦らず過去問に取り組み、また先生は質問や相談に丁寧に答えてくれるので、試験に対する不安な気持ちを取り除くことができました。勉強だけでなく、休み時間に先生と雑談をして盛り上がるなど、オンオフがはっきりしたこの環境のなかで学べたことは、試験に向けて大きな糧になりました。この講座を受けたことで自信をもって試験に臨めると思います。（比較文化学科2年 稲毛梨乃）

## 就職活動体験記 [4年生]

今年も就職活動が始まっています。4年生になって就活真っ最中の学生に、就活に備えてやっておいた方がいいことについて聞いてみました。

### ●資格を取ろう！

私は大学二年生の春学期に「秘書技能検定」の二級と準一級を取得しました。この資格を取ろうと思ったのは、大学生生活も慣れてきた二年生の春休み明け、「三年生から就職活動で忙しい日々が始まるということは、何かに取り組むには今年しかない！」と気づいたことがきっかけです。ちょうどそのとき、学内で就職試験・資格取得対策講座説明会があり、参加することにしました。

この説明会で、秘書技能検定などの資格を取るための授業を学内で受けられることを知りました。秘書技能検定の勉強をすれば、社会人としての立ち居振る舞いや言葉遣いが身につくということだったので、まだ業界を決めきれていない私でも社会人になったときに役に立つと思い、取ってみることにしました。授業では、分厚い参考書のなかから試験に出る重要な箇所を教えてもらい、自分で勉強するよりも効率よく内容を覚えることができました。宿題で出された問題は解説のあと自分で繰り返し解くようにしました。その結果、二級と準一級ともに合格することができました。準一級では、二次試験として面接があるのですが、これも授業でしっかり対策をしてもらい、自信をもって臨むことができました。二年生から資格取得に向けて勉強したことは、エントリーシートに書く「学生時代に力を注いだこと」のエピソードとして就職活動にも活かしています。資格はなんでもいいので二年生のうちからチャレンジした方がいいと思います。

### ●インターンシップに行こう！

三年生になると、学内でも就職に関する説明会が多くなっていき、将来について考える機会が増えていきます。私は三年生の春、興味のある業界について知るために、まずはインターンシップ(就職体験のアルバイトのようなもの)に参加することにしました。インターンシップでは、その業界のなかで企業がなにをしているのか、どういう位置を占めているのかがよくわかり、社員の方に直接質問ができる機会もあって、説明会だけではわからないことや、疑問に思っていたことなどを知ることができました。また「企業の雰囲気」を事前に知れるということも、私がインターンシップに参加するべきだと思う理由の一つです。その企業が自分にあうのかあわないのかをそこである程度判断できると思います。興味のある業界やなにをしているのか詳しく知りたい業界が



正津さんの秘書検定合格証

あれば、インターンシップに行ってみて自分の目で実際に確かめてみてください。自分が本当につきたい仕事を見つけるきっかけにもなると思います。

(比較文化学科4年 正津彩花)

3年生の就職活動について、とくにインターンシップについてお話します。私は3年生のときにいろいろな業界の夏季インターンシップ(冬季インターンシップを開催する企業もあります)に参加しました。なかには名前を聞いたことがあるだけの会社もありましたが、振り返ってみると、「インターンシップに参加しながら自分のやりたい仕事を見極めていき、そこから業界や業種を絞っていく」というのが、いってみれば私の就活の「道順」だったと思います。インターンシップは、たった数時間で終わるものや丸1日を費やすもの、数日から1週間をかけるものなど、企業や職種によって様々でした。内容としては、職業体験のように実際に業務に取り組むものや、より詳細な説明会のようなものがあり、なかでも多かったのは、まず企業理念や経営ビジョン、実際の業務内容の説明を受け、そこで得た知識をもとにグループワークで話し合い、テーマに沿ってプレゼンをするというものです。

私がインターンに参加してよかったなと思うことは、ふだんはべつコミュニティに属しているほかの大学の子たちと情報交換ができたことです。例えば、「インターン参加は今回が初なのか」「志望業界はどこなのか」「いま就活で何をしているのか」といった基本的なことから、同じ業界を目指している子であれば、「〇〇(企業)ではこういうことをやった」「〇〇の雰囲気はこうだった」など、有益な話を聞くことができます。実際、私は夏季インターンで知り合った子たちとグループワークを通じて仲良くなり、今でも就活について情報交換をしています。「個人戦」に見えがちな就活ですが、やり方によっては「団体戦」に変えることができると思います。さらに「もしかしたら私だけかも…」と悩んでいることであっても、同じ悩みや不安を抱える仲間がたくさん出会えます。悩みを相談していっしょに解決できる仲間がいれば、多少とも安心に繋がると思います。インターンでは、「就活の仲間」ができたことが一番の収穫だったかなと思います。

将来についてまだ何も決まっていなくても、とにかく一度現場に行ってみて、そこに何があるのか、何が行われているのかを自分の目で確かめることが大事だと思います。私も最初は、「就活」というままで経験したことのない分野で、「知らない」「分からない」という不安が大きく、最初の一步がなかなか踏み出せずにいました。これを読んで、みなさんが就活に対する「知らない」「分からない」を少しでも解消できたらと思います。

(比較文化学科4年 晝間千紘)

## 就職活動体験記 [卒業生]

最後に、就職活動を無事に終えた卒業生の先輩に、就活で大事なことや就活に対する心がまえについて聞いてみました。

就職活動を終えて実感したことは、とにかく事前の準備が大切だということです。

私は大学3年生の6月に就職活動の準備を始めました。いま振り返ると遅いスタートだったと思います。その時期にインターンシップに参加し始めて、最終的には30社程度の1 day型、そのうち1社は1ヶ月間の実務型インターンシップにも参加しました。よく、「1 day型は意味がない(期間が短いため)」という話を聞きます。ですが、それはすでに準備をしっかりとってきた人の場合だと思います。就職活動(の準備)を始めた当初、私は何が自分に合っているのか、何を重視して働きたいのか、自分の本当にやりたい事は何か、などほんとうに何もわかっていませんでした。それを知るためにインターンシップに参加したといってもいいと思います。たとえ一日だけのものでも、たくさんのインターンシップに参加することで、自分にとって魅力的と思える企業の共通点を見つけたり、グループワークで自分の得意な役割を知ったりすることができ、学ぶことが多かったです。また1ヶ月間の実務型インターンシップでは、実際に毎日働くイメージをもて、自身の将来についてより現実的に想像することができました。1 day型と実務型、どちらもいいところがあると思います。

インターンシップに参加した企業のうち、実際にエントリーした企業は5社程度です。本格的に就職活動が始まると、何百という企業の中から受けたいと思う企業を探し出さなくてはなりません。説明会を「はしご」したり、エントリーした企業の試験の対策をしたり、実際の試験や面接よりも準備の方が大変でした。インターンシップに参加することは、就職活動が本格化するまえにエントリーする企業の取捨選択を済ませ、就職活動が始まってから必要になる労力をできるだけ減らすという意味があります。就活では膨大な量の情報を処理しなければなりません。インターンシップに参加して、業界研究、企業研究、自己分析などの準備を

事前に済ませておくことは、本当に大切だと思います。ここからは就活に向けてのアドバイスです。

まず2年生には、業種や職種を問わずとにかくたくさんのインターンシップに参加して、いろいろな企業を知ってほしいと思います。もちろん、自分の興味や関心との兼ね合いになりますが、私は、自己分析の結果や思い込みだけで自分の道を決めて(狭めて)しまうのはもったいないと思います。就職活動では自己分析(自分がどんな人間でどんな企業に向いているかを分析します)が重要になりますが、たくさんの企業、業種、職種を知っておけば、自分のなかの可能性が広がり、自己分析の結果のもつ意味も変わってきます。

つぎに3年生には、企業を絞り込むための「企業研究」をぜひやってほしいと思います。憧れていた企業であっても、インターンシップに参加すると雰囲気合わないとすることが多々あります。逆に、なんとなく参加した企業がすごくマッチしていると感じることもあります。自分のなかでその企業がアリカナシかを判断できるようになることは、就職活動が本格化する際の助けになるので、ぜひ早めに企業研究に取りかかってほしいです。また、ふだんから目上の人との会話を楽しんでみることもおすすめします。私は、両親や先輩、大学の先生など、自分とは年代が異なる人と頻繁に話をする中で、新しい発見があったり、面接の場面で年配の方と話すときの緊張が和らいだりしました。

最後に、就職活動はつねに自分自身と向き合わなければなりません。自分に自信がない人はネガティブな気持ちになってしまうこともあると思います。ですが、これほどたくさんの企業を訪ねて、そのトップの人たちの話を聞ける機会、これほど自分の将来について真剣に悩める機会は、人生でこの一度だけだと思います。ぜひ、人や企業との新しい出会いの場だと思って、就職活動を(ほどよく息抜きもしつつ)楽しんでみてください。(比較文化学科卒業生 長谷川美帆)